

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域包括ケアにおける地域包括診療料の現状と課題 —在宅医療への有用性について—
演者名	明石 のぞみ
所属	あいクリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		8
目的 当院は、日本一高齢化のスピードが速いとされる多摩ニュータウン地区で外来診療と訪問診療を行う連携型の機能強化型在宅療養支援診療所である。外来患者に地域包括診療料の算定を開始したが、本診療料における在宅患者への有用性について検討した。 方法 外来患者は約 1200 人であるが、4 月から地域包括診療料の算定を開始したところ、9 月末日現在、約 90 名の患者が利用している。今回、算定患者の年齢・疾患・生活環境・自立度等の属性分析、受診形態、夜間対応・電話相談内容及び対応とアンケートの自由記載回答から分析をおこなった。 結果 算定患者数 88 名、平均年齢 85 歳、男女比、男性 32%・女性 68%、要介護未認定者が 60%であった。家族構成は独居世帯 28%、夫婦のみ世帯 30%。4 疾患についての特徴はなかった。 電話頻度は週に約一回で身体症状の相談が多いが、不安からくるものが目立った。1500 点は妥当とへの不満はなかった。 また、地域包括診療料を希望した理由は同居の有無など生活背景の影響が強いと考えられた。 考察 地域包括診療料はかかりつけ医の機能充実として有意義であることはゆるぎない。利用者の希望から 24 時間 365 日の対応への期待があり、往診体制の整備が必要と思われた。また、地域包括ケアシステムの推進から疾患の限定をなくし、グループ診療も認めるべきと考える。さらに、医療依存度の低い通院困難な在宅患者（月一回の訪問診療患者）への適応は医療費削減の点から有効と考える。		